

精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議  
(地域創生戦略効果検証会議)

議 事 録

平成29年度 精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議

(地域創生戦略効果検証会議)

日時：平成29年8月29日（火）

18：00～20：00

場所：庁舎6階 第2委員会室

○大原企画調整課長

皆さん、こんばんは。

定刻となりましたので、ただいまから平成29年度精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会をさせていただきます。

私、本日の司会進行を務めさせていただきます事務局の総務部企画調整課長の大原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、開会に当たりまして、木村町長よりご挨拶を申し上げます。

木村町長、よろしくお願いいたします。

○木村町長

改めまして、皆さん、こんばんは。

精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議ということで、開会にあたってのご挨拶を申し上げたいと思います。

本日は大変ご多用な中、また、夜分にもかかわりませず、精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議にご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。本来でしたら、8月7日に開催をさせていただくところではございましたが、台風5号の影響によりまして、急遽中止させていただき、昭和36年の第2室戸台風を思い返し、警戒本部を立ち上げ、何としてでも大きな被害を受けないようにと祈りつつ、158名が昼夜にわたって災害対応に備えたところでございます。おかげさまで、総雨量も90ミリというところでありまして、被害の発生もなく、ほっとしたところでござい

ます。会議のご予定をいただいております皆様方には大変ご迷惑をおかけしたところでございますが、本日、改めてこうしてお集まりをいただいたところでございまして、大変申しわけございません。

さて、有識者会議の開催にあたりまして、皆様方には、まず、悲しいご報告をさせていただきます。この有識者会議の座長としてご指導いただいております同志社大学政策学部教授の今川晃先生におかれましては、昨年の9月24日に62歳という若さで急逝されました。今川先生には、この有識者会議の座長を初め、総合計画審議会や特別職報酬等審議会、さらには、せいかまちづくり塾など多岐にわたってご指導を賜ってまいりました。この場をお借りいたしまして、これまでのご厚情に感謝を申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

なお、福知山公立大学地域経営学部准教授でいらっしゃいます杉岡秀紀先生におかれましては、亡き今川先生に恩師として仕えてこられ、そのご遺志を継がれており、地域に根差した協働の取り組みや地域公共人材の育成をご専門にご活躍いただいているということをお聞きしたところから、ぜひともこの有識者会議の座長をお引き受けいただきたいとお願いを申し上げましたところ、ご快諾をいただいたところでございます。ありがとうございます。杉岡先生、これからもよろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。

さて、地方創生の取り組みといたしましては、本町は豊かな自然と歴史に恵まれ、また、けいはんな学研都市の中心に位置するという他の団体にはない地域資源を活用し、まちの魅力を内外に発信するシティプロモーションを精華町地域創生戦略の政策の柱として、さまざまな施策を進めているところでございます。

平成28年度におきましては、京都精華大学様との包括連携協定の締結、ツアー・オブ・ジャパン京都ステージの初開催のほか、特産品の洛いもを活用した焼酎「精華の夢」の開発や、お手元にお配りをしております旅行ガイド「まっふる」との提携によります観光マップ「ぶらりまち歩き京都精華町」の発行などに取り組んでまいりま

した。

今年度に入りましても、去る6月6日には地方創生に関する包括的な連携を目的に、株式会社京都銀行様と精華町の魅力発信パートナーシップ協定を締結させていただきました。

また、8月11日から13日にかけては、東京ビッグサイトにおいて開催された世界最大の創作活動イベントでありますコミックマーケットに唯一の自治体ブースとして出展し、広報キャラクター、京町セイカを用いたプロモーション活動を展開したところでございます。

また、現在、けいはんなオープンイノベーションセンター、KICKにおきましては、地方創生拠点整備交付金を活用したクリエイターの創作支援や子供向け科学体験教育のための拠点整備を行うべく、事業進行中でございます。

本町としましては、今後もさまざまな企業や大学と連携することによりまして、地域創生の施策に生かしてまいりたいと考えているところでございます。本日の会議では、地域創生戦略に掲げる業績評価指標、いわゆるKPIの検証などを通じまして、今後の取り組みに対するご示唆をいただければ幸いです。

ここで少しお時間をいただきまして、まちの現状について報告を申し上げたいと思います。

つい先日、27日の日曜日には、精華町の防災訓練、毎年、小学校区ごとに回っているわけでありましても、山田荘小学校区、いわゆる8自治会、そして8自主防災会のほか、陸上自衛隊大久保駐屯地や木津警察署、あるいは危険物安全協会、学研地区防災連絡協議会、また相楽医師会精華班の先生方を含めて、18の諸団体にもご参加いただく中で、総勢600名を超える大きな防災訓練となりました。参加いただいた住民の方々には、それぞれ地域の集会所を拠点にお集まりいただき、そして、その後、訓練場に移動いただき、いろいろな体験をしていただいたところでございます。

また、22日には東京の早稲田大学に寄せていただきまして、財政改革で公会計制

度への着実な移行という立場から、パブリック・ディスクロージャー賞にグッドがつく最高の賞をいただいたところでございます。これも精華町にとりましては、全国でまれで、7回連続の受賞でございました。こういうまちができたのも、平成16年に私がこの仕事につかせていただいたときには、まさに財政的に大変な危機であり、夕張市の破綻をきっかけにして財政指標が示されましたときには、実質公債費比率が22.3と、京都府内でもワースト3、そして、平成16年度予算編成ができないという、そういう危機的な状況の中で、当時の45名の管理職の方々が我々の管理職手当を使ってくださいという事もあり、予算編成ができたというまさに危機的な状況の中で、対住民の皆様にもどう説明をしていくか、職員自らが知恵を出し、勉強し、また、大学の関係者等、いろんな助言をいただく中で、いろんな改革を進めてきました。また、住民にもよりわかりやすく町の状況を報告し、そして、そこまであなた達が苦勞しているなら、ということの中で、住民が立ち上がっていただいたという、まさにそういう中で今日があるわけであります。

平成25年が第5次総合計画の新たなスタート、それ以降だけでも、大臣表彰が10件、そして、全国規模でいただいた表彰が13件、そして、京都府知事の表彰をいただいた住民が16件あったと。こういう自治体は全国には私はないと、このように確信をしております。まさに住民の皆さんからも、昔は公務員を批判すれば、それでよかった時代もあったのですけれども、今は一切そういうお話は聞きません。みずからボランティア活動に精を出していただいているという、こんなすばらしいまちで、今まさにいろいろなことに挑戦をさせていただいているというまちでもございます。どうかそれぞれの委員の皆様方にも、精華町の現状を十分ご承知をいただく中で、新たなまちの姿を、今、見ながら、我々にもご助言いただければうれしいなど、このようにも思っているところでございます。

いろいろお時間をいただいて申しわけございません。本日の有識者会議、委員の皆様方におかれましては、ぜひ自由な発想でご提案をいただき、有意義な会議になりま

すことをお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願  
いいたします。

○大原企画調整課長

ありがとうございました。

なお、木村町長におかれましては、この後、ほかの公務がございまして、これにて  
退席をさせていただきますので、何とぞご了承ください。

○木村町長

ありがとうございました。よろしくお願いたします。

○大原企画調整課長

それでは、本日お配りをしております資料の確認をさせていただきたいと思  
います。

まず、本日の会議次第、1枚物の資料でございます。次に、有識者会議の構成とい  
うことで、委員名簿でございます。次に、資料の①精華町地域創生戦略の基本的な考  
え方という横判の資料でございます。次に、資料②の1ということで、地方創生関係  
交付金の採択の状況の資料でございます。次に、資料②の2ということで、平成29  
年度地方創生推進交付金の申請状況についてという資料でございます。次に、資料③  
の1ということで、横判になりますが、左肩にサブカルチャーを軸にした観光振興・  
地域創生事業と記載をしたホッチキス留めの資料でございます。次に、資料の④業績  
評価指標KPI年次経過報告という資料でございます。次に、精華町地域創生戦略の  
冊子でございます。次に、精華町の人口ビジョンの冊子でございます。最後、資料番  
号はありませんが、町長からありましたように、まっふる「ぶらりまち歩き精華町」  
の冊子でございます。お配りしている資料は以上でございますが、不足している資料  
等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、恐れ入ります、次第のほうに戻っていただきまして、次第の2番とい  
うことで、出席者のご紹介に移りたいと思  
います。お配りをしております委員名簿、五  
十音順になっておりますが、この名簿に基づきまして順にご紹介をさせていただ  
きた

いと思います。

まず、京都銀行精華町支店支店長の鹿谷昌史様でございます。

○鹿谷委員

鹿谷でございます。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

続きまして、この会議の座長をお願いしております、福知山公立大学地域経営学部准教授で、京都府立大学特任准教授の杉岡秀紀様でございます。

○杉岡座長

杉岡でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○大原企画調整課長

続きまして、経済産業省近畿経済産業局地域経済部地域経済課地域開発室室長で、地方創生コンシェルジュの田口一江様の代理で、地域開発室調査官の外山泰様でございます。

○外山委員

外山でございます。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

続きまして、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構のコーディネーターで、元時事通信社京都総局長の常山広様でございます。

○常山委員

常山と申します。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

続きまして、この会議の副座長をお願いしております同志社大学グローバルコミュニケーション学部准教授の中村艶子様でございます。

○中村副座長

中村艶子です。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

続きまして、特定非営利活動法人精華町ふるさと案内人の会理事長の古瀬治男様で  
ございます。

○古瀬委員

古瀬でございます。どうぞよろしく申し上げます。

○大原企画調整課長

続きまして、特定非営利活動法人みんなの元気塾代表の森田起一様でございます。

○森田委員

森田です。

○大原企画調整課長

続きまして、精華町商工会会長の吉田一雄様でございます。

○吉田委員

吉田です。よろしく申し上げます。

○大原企画調整課長

有識者会議の委員の皆様は以上でございます。

続きまして、本町の出席者でございます。

この有識者会議には部長級の職員も出席をさせていただいておりますので、順にご  
紹介をさせていただきます。

まず、総務部長の岩橋でございます。

○岩橋総務部長

岩橋です。本日はどうもありがとうございます。

○大原企画調整課長

続きまして、住民部長の田中でございます。

○田中住民部長

田中でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



○大原企画調整課長

続きまして、健康福祉環境部長の岩前でございます。

○岩前健康福祉環境部長

岩前でございます。よろしくお願ひいたします。

○大原企画調整課長

続きまして、事業部長の宮本でございます。

○宮本事業部長

宮本でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○大原企画調整課長

続きまして、教育委員会教育部長の岩崎でございます。

○岩崎教育部長

岩崎でございます。どうぞよろしくお願ひを申し上げます。

○大原企画調整課長

続きまして、上下水道部長の浦西でございます。

○浦西上下水道部長

浦西でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○大原企画調整課長

続きまして、消防本部消防長の坂野でございます。

○坂野消防長

坂野です。よろしくお願ひします。

○大原企画調整課長

続きまして、議会事務局長の西島でございます。

○西島議会事務局長

西島です。よろしくお願ひいたします。

○大原企画調整課長

続きまして、総務部次長の浦本でございます。

○浦本総務部次長

浦本でございます。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

部長級の職員については、以上でございます。

続きまして、事務局のメンバーをご紹介します。

総務部企画調整課課長補佐の西川でございます。

○西川企画調整課課長補佐

西川でございます。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

同じく主査の森島でございます。

○森島企画調整課主査

森島と申します。よろしくお願いいたします。

○大原企画調整課長

それでは、恐れ入りますが、次第に戻っていただきまして、次第の3ということで、資料の説明に移りたいと思います。

まず、①ですね、こちらの地域創生戦略の概要という資料をご覧いただきたいと思っています。これにつきましては、繰り返しの説明になるかもしれませんが、改めて、概要のご説明をさせていただきたいと思いますので、恐れ入りますが、よろしくお願いいたします。

平成27年10月に策定をいたしました精華町地域創生戦略の基本的な考え方ということでございます。

資料の左上でございますが、第5次総合計画との関係ということで、本格的な人口減少時代への対応と同時に、第5次総合計画に掲げております施策のうち、地域創生に資すると考えられる重点施策などを積極的に推進するためのアクションプランとし

て位置づけをしております。

次に、総合戦略策定に当たっての基本的な視点でございます。

まず、①といたしまして、豊かな自然や歴史に恵まれ、かつ、学研都市の中心に位置する精華町のさまざまな地域資源を活用し、まちの魅力を高めることで、新たなまちの価値を創造するということ。また、②といたしまして、住んでみたい、住んで良かったまち、あるいは、訪れたい、訪れて良かったまちだと愛着と誇りを感じられる学研都市精華町の都市ブランドの確立による地域創生の取り組みを進めるということでございます。これらの基本的な視点、いわば精華町の基本理念に基づきまして、資料の右上になりますが、精華町の魅力発信、シティプロモーションを精華町の地域創生戦略における政策の柱とし、こちらに書いております①から⑤までの5つの基本目標を掲げ、町内、町外に向けた戦略的な魅力発信を行うことといたしております。

恐れ入りますが、1枚おめくりをいただきまして、次のページには、地域創生戦略の策定経過を時系列でまとめさせていただいております。恐れ入りますが、その次のページには、①の誘客拡大に向けた情報発信の強化から、⑤の健康・スポーツによる地域活性化まで5つの基本目標を記載させていただいております。精華町地域創生戦略の概要につきましては、以上でございます。

続きまして、次第のほうに戻っていただきまして、②地方創生関係交付金の状況及び③地域創生関係事業の実施状況につきまして、事務局の西川よりご説明をさせていただきます。

○西川企画調整課課長補佐

それでは、続きまして、②地方創生関係交付金の状況及び③の地域創生戦略関係事業の実施状況につきまして、ご説明をさせていただきます。

それでは、まず、地方創生関係交付金の状況についてご説明申し上げます。

まず、資料番号の②の1につきまして、平成26年度の国の補正予算に伴います地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金から、昨年度末に計上いたしました地方創

生拠点整備交付金までの地方創生関係の交付金に係ります採択状況を記したものでございます。ご覧をいただきますとおり、本町といたしましては、現状において、できる限り効果的な事業構築を図りまして、京都府や内閣府との相談を重ねた結果、現在に至るまで積極的に交付金獲得に挑んできたところでございます。

1枚おめくりいただきまして、資料番号の②の2でございます。こちらは、本年度、平成29年度に入りましてからの地方創生推進交付金の申請状況についてでございます。こちらは、京都府を中心といたしまして、広域連携事業に参画をいたしております事業の「今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業」につきまして、お茶の京都に係ります関係経費やイチゴ園の施設整備補助に係ります経費の増額変更のほか、同じく、「京都アカデミック産業創造事業」につきまして、広報キャラクター、京町セイカを活用したシティプロモーションやサブカルチャー振興を生かしたインバウンドに係る経費の増額、京都銀行様との包括連携協定によります地域のヒト・モノ・カネの動きや産業育成におけるニーズ調査、オープンデータの活用といった連携のための経費、けいはんなプラザの活用による学研都市の交流促進を図るけいはんな学研都市活性化促進協議会の運営経費の追加について、新たに追加採択をされたところでございます。

また、新たに広域連携事業といたしまして、インクルーシブソサエティ（共生で賑わう社会）推進事業に参画をいたしまして、障害のある方の社会参加に向けてのスポーツ振興などに係る経費を新たに新規計上いたしております。

なお、京都府による広域連携の新規事業でございました大学のまち京都・学生流出防止・中小企業人材確保事業につきましても、参画を希望したところでございますが、残念ながら、事業そのものが不採択となった結果でございます。

以上が地域創生関係交付金の状況についてのご説明となります。

続きまして、地域創生戦略関係事業の実施状況についてでございます。

平成28年度におきましては、地方創生加速化交付金を活用した事業が5つ、地方

創生推進交付金を活用した事業が2つ、合計7つの事業に取り組んでまいりました。

まず、資料番号③の1、サブカルチャーを軸にした観光振興・地域創生事業でございます。本事業は、本町が取り組みます地方創生関係事業におきまして、唯一本町単独での事業となっております。

本事業は、アニメ、漫画、3DCGなどのサブカルチャーと呼ばれる文化を起点といたしましたPR活動や観光振興の取り組みによります誘客拡大による交流人口の拡大と、地域資源の付加価値向上によります地域の消費活動の促進を目的として実施をいたしました。

事業結果の具体的な内容といたしましては、情報発信力の強化といたしまして、京町セイカのオリジナルウェブページの構築や各種ノベルティーの制作、PR活動といたしまして、我が国で初の開催となりましたアメリカのコンテンツ系イベントであります東京コミックコンベンションへの出展などを行いました。また、サブカルチャー振興とクリエイター支援といたしましては、事業全体に係るコンサルティング業務を委託しましたほか、本町で2回目の開催となりますサブカルチャーイベント、SEIKOサブカルフェスタへの出展、ギネスブックにも掲載されています世界的なゲーム開発ハッカソンでございますグローバル・ゲーム・ジャムの主催をいたしましたほか、町独自のPRコンテンツでございますマンガジェネレーター共同開発などに取り組んでおります。

また、サブカルチャー振興と地域観光資源の連携といたしましては、お手元にも配付をいたしております、町長のご挨拶にもございました「まっふる京都精華町」の制作、また、地域資源活用アプリケーションの開発などを行ったほか、科学のまちの子どもたちプロジェクト推進によりますサイエンス・ワークショップやプログラミング教室の開催、また、東京秋葉原のパソコンショップとのコラボレーションによります首都圏でのPR活動などを行いました。

最後に、インバウンド観光対策といたしまして、日本のサブカルチャー文化に造詣

の深い若者が多くいると言われております台湾におきまして、初の学研都市精華町PRイベント、サイエンスタウン「KYOTO SEIKA」の開催などに取り組みました。

今回の事業成果といたしましては、本町の新たなツールといたしまして、サブカルチャー振興と広報キャラクター、京町セイカのブランド力強化によりまして、サブカルチャーやキャラクターを既存の施策と組み合わせることでの相乗効果によります交流人口拡大に向けた取り組みを展開することができたと考えております。

事業の決算額、主な経費内訳については、記載のとおりでございます。

今後の課題といたしましては、事業効果をさらに最大化するために、キャラクターブランド及びクリエイターによります創作活動に重点を置いたサブカルチャー振興が必要であること。また、SNSの活用やイベント参加によります情報発信力の強化、あわせまして、現在進行中でございますけいはんなオープンイノベーションセンター、KICKを活用いたしましたクリエイター支援施設の整備等によりますサブカルチャー振興の推進を上げております。

めくっていただきまして、資料番号の③の2でございます。ツアー・オブ・ジャパンから始まる自転車を活用した地域づくり事業でございます。本事業は、京田辺市との広域連携事業になってございます。

本事業は、本町と京田辺市が持ちますサイクルスポーツ振興の環境を踏まえまして、両市町で平成28年度から開催され、国内外の注目が集まります国際自転車ロードレース、ツアー・オブ・ジャパン京都ステージを契機といたしまして、両市町のさまざまな地域資源を自転車というツールを活用して有機的に結びつけ、サイクリストや観光客が地域を周遊できるネットワークを構築することを目的として実施をいたしました。

事業結果の具体的な内容といたしましては、両市町の地域資源とロードバイクの躍動感ある映像を組み合わせたプロモーション映像の作成、インターネット上での配信

を行ったほか、京都ステージのプレイベントといたしまして、キッズサイクルフェスや自転車フェスタの実施、京町セイカをあしらった啓発用オリジナル自転車の制作、サイクルモード大阪への出展などを実施いたしました。

また、そのほか、サイクリング環境の整備といたしまして、コース上の道路の改善や補修をあわせて行っているところでございます。

事業成果といたしましては、ツアー・オブ・ジャパン京都ステージの開催時だけでなく、通年を通じた自転車愛好家等を対象とした交流人口の拡大が図れたものと考えております。

事業決算額の主な経費内訳については、記載のとおりでございます。

今後の課題といたしましては、自転車愛好家等に対するツアー・オブ・ジャパンコースのPRによりまして、交流人口の拡大と地域活性化の取り組みを継続しつつ、地域に根差したレースとしての定着化を図る必要があると考えておりますほか、引き続き京田辺市と連携した広域的な情報発信、交通マナーの啓発、また、沿道の住民の皆様によりましてレース観覧者へのおもてなし等への参画をお願いしていく中で、地域の理解を深めることを上げております。

続いて、資料番号の③の3、けいはんな学研都市の都市ブランド醸成による定住促進事業でございます。本事業は、学研都市京都府域の木津川市、京田辺市との広域連携事業となっております。

本事業は、学研都市京都府域3市町におけます独自の地域資源を学研都市建設の理念に沿って一体的に活用することによる相乗効果を用いまして、学研都市全体の活性化による都市ブランドの醸成を図ることを目的に実施をいたしました。

事業結果の具体的な内容といたしましては、3市町や京都府、関経連等で構成いたしますけいはんな学研都市活性化促進協議会を運営いたしまして、助成金制度によりまして地域の各種団体への活動支援やコンサート活動のほか、学研都市スポーツ教室として小学生によるハンドボール教室、夏休みけいはんなロボット教室、けいはんな赤

ちゃん学講座、けいはんなの歴史講座といった企画を継続して実施をいたしましたほか、新たな文化企画といたしまして、けいはんな吹奏楽フェスタ、けいはんな市民雑学大学とのコラボ講座など、文化・学術両面でのけいはんな学研都市の交流活性化を促進したところです。

事業成果といたしましては、3市町が単独では実施が難しい各種事業を通しまして、けいはんなプラザを核とした文化・学術活動の拡大が図れたものと考えております。

事業決算額、主な経費内訳については、記載のとおりでございます。

今後の課題といたしましては、学研都市の中核交流施設でありますけいはんなプラザのさらなる知名度向上と学研都市の活性化促進、3市町によります、より密な連携によりまして、引き続き学研都市の活性化に資する事業の展開を図ることを上げておるところでございます。

続いて、資料番号③の4でございます。相楽圏域におけますインバウンド観光事業でございます。本事業は、相楽圏域の市町村を中心とした7つの市町村での広域連携事業でございます。

本事業は、南山城地域での観光圏域の枠組みづくりを進め、同地域の多様な観光資源を広く世界に発信し、誘客を図るため、台湾の国際観光博覧会で同時開催されましたイベント「台感！ニッポン。」におきまして、相楽地域のPRと誘客促進活動や、南山城地域の特色を生かしたインバウンド観光プランの開発を目的に実施をいたしましたところでございます。

事業結果の具体的な内容といたしましては、京都府及び相楽5市町村が連携いたしまして、「台感！ニッポン。」へのブース出展によりますお茶の京都や本町のスイーツタウン構想、また、ツアー・オブ・ジャパン京都ステージなどのPRを行いましたほか、台湾でのインバウンド啓発に向けた相楽地域のPR冊子の制作などを行ったところでございます。

事業成果といたしましては、関西国際空港からのリムジンバスによるアクセスを生



かした相楽地域のインバウンド観光推進に向けまして、訪日観光客の多い台湾でのPR活動が図れたものと考えております。

事業決算額と主な経費内訳については、記載のとおりでございます。

今後の課題でございますが、相楽地域全体でのインバウンド観光推進に向けまして、どのような取り組みを継続するのか。また、本事業で築いてきました京都府や5市町村の関係性を土台として、本町への誘客をどのように図るのかということをお上げおるところでございます。

次は、資料番号③の5、お茶の京都DMO地域活性化推進事業でございます。本事業は、京都府とお茶の京都を構成します山城地域12市町村での連携事業となっております。

本事業は、京都府が中心となって進める3つの京都のうち、そのお茶の京都を展開するため、山城地域のブランド力を高めます地域商社であるお茶の京都DMOの設立や、宇治茶ブランドの管理、農産物のブランド化、広域観光・交流促進を核とした地域づくりにつなげることを目的に実施したものでございます。

事業結果の具体的な内容といたしましては、本町における日本遺産構成文化財であります医師茶園等に関する解説板の設置や、一般社団法人京都山城地域振興社、通称、お茶の京都DMOでございますが、この設立に向けました経費負担、広域観光におけます精華町の魅力発信に向けてのバスラッピング広告などを行ったところでございます。

事業成果でございますが、本町の新たな魅力としてのスイーツタウンを一体的にPRすることで、町内外に精華町の魅力を発信することができたと考えております。

また、本町の広域観光や交流促進における核となりますお茶の京都DMOの設立ができたものということで考えております。

事業決算額と主な経費内訳については、記載のとおりでございます。

本町の課題といたしましては、お茶の京都でありながら、本町自身は茶の産地では

ないため、スイーツの活用などによりまして、京都府南部一帯での取り組みとして進める必要があること。また、お茶の京都DMOを活用した着地型旅行商品の開発でありますとか、そのための地域資源の発掘、付加価値化、情報の発信やプロモーション機会の活用などに取り組むことを上げております。

次に、資料番号の③の6、今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業でございます。本事業は、29年度におきましても、事業変更並びに構成団体は変わっておりますので、最新の情報といたしまして、京都府と20に上る府内市町村によります広域連携事業となっております。

本事業は、地元産品、観光のブランド力強化に向けまして、お茶の京都と連携をいたしまして、最大の観光イチゴ園であった川西観光苺園の閉園後における特産品であります精華町のイチゴを活用した体験型観光農園の新規立ち上げ支援、また、特産農産物でございます洛いもを用いた新商品の開発など、観光農業の推進を目的に実施をいたしました。

事業結果の具体的な内容といたしましては、地域ブランド力強化を図るため、イチゴを活用した体験型観光農業の推進や洛いもを活用した特産品開発に係る事業経費の助成を行いましたほか、本町における新たな観光資源の洗い出しや、類似する先進地事例などから今後の観光農業推進のための基礎調査を行ったところでございます。

事業成果といたしましては、イチゴを活用した体験型観光農園や洛いも生産団体への立ち上げ支援によりまして、地元産品、観光のブランド力強化が図れたものと考えております。

事業決算額の主な経費内訳については、記載のとおりでございます。

今回の課題といたしましては、イチゴ園による観光農業を軸といたしました誘客の拡大を継続して支援する、その方法、また、地元産品の販売力向上と販路拡大、基礎調査結果を活用した観光施策展開の具体化を図ることが検討課題として上げられております。

最後でございます。資料番号③の7、京都アカデミック産業創造事業でございます。  
本事業は、京都府と本町、京田辺市によります広域連携事業となっております。

本事業は、前身事業として実施をいたしました地方創生加速化交付金を活用いたしましたサブカルチャーを軸とした観光振興・地域創生事業を引き継ぐ形で、サブカルチャー振興をより深化し、京都精華大学などの大学機関との連携によります若者のための新たな仕事の創出やクリエイターの創作活動支援、そして、持続的なサブカルチャー振興のための仕組みの構築にまで発展させることを目的として実施したものでございます。

事業結果の具体的な内容といたしましては、大学機関等との連携によりますクリエイター人材育成支援に向けまして、京都精華大学や京都マンガミュージアムなどのアニメ、デザイン、メディア関係の関係者へのヒアリング調査や人材確保、並びにけいはんなオープンイノベーションセンター、KICKを活用いたしました施設整備に向けての入居条件等の調査について委託を行ったものでございます。

事業成果といたしましては、京都精華大学の学術振興課との調整、情報交換によりまして、同大学マンガ学部の教員の皆様との連携関係の構築や、京都マンガミュージアムとの連携に向けた情報交換、また、京都府や京都産業21との協議、調整によりまして、けいはんなオープンイノベーションセンターへの入居申請を円滑に進めることができたものと考えております。

事業決算と主な経費内訳については、記載のとおりでございます。

今後の課題といたしましては、包括連携協定を結ぶ大学機関を中心といたしまして、学生によります町のイベントでのコラボレーションなど、継続性のある取り組みの必要性を上げているところでございます。

長くなりまして失礼いたしました。説明といたしましては以上でございます。

○大原企画調整課長

それでは、引き続きまして、次第④ということで、業績評価指標KPI年次経過報

告についてご説明をさせていただきますので、恐れ入りますが、資料の④をご覧ください。

精華町の地域創生戦略では、5つの基本目標を達成するための具体的な施策と、それを評価するための指標ということで、K P I というものを設定しておりまして、毎年度、この有識者会議において進捗状況を検証していただくこととしております。若干見にくいので、恐縮ですけれども、それぞれの設定をしておりますK P I の進捗状況が経年で比較ができるように整理をしたものでございます。

まず、一番左側の列、基本目標1で掲げましたK P I につきましては、1行目の1の1、広報誌の配布世帯率や、上から5行目、学研都市のイベント参加者数及び、その下のサブカルチャー関連イベントの実施、参加件数につきましては、既に目標値を上回っている状況でございます。

一方、上から4行目、1の2で、滞在人口率でございますが、こちらは、地域に2時間以上滞在した人の数を国勢調査人口で割った数値ということで、もともとは基準値を1.91倍、目標値を3.00倍というふうに設定をしておりましたが、国の地域経済分析システム、RESASにおける滞在人口率の算出方法が変更となったことに伴いまして、基準値が1.91から、こちらに記載をしておりますように、0.81倍というふうになったため、もともと設定をしておりました割合に応じまして、目標値を1.27倍というふうに設定をさせていただいております。

なお、平成28年度の実績値といたしましては、横ばいの0.81倍にとどまっているという状況でございます。

次に、真ん中より中ほどになりますけれども、基本目標2で掲げましたK P I につきましては、下から6行目、2の2ということで、審議会等の女性の割合はふえておりますものの、その上、2の1、学研立地企業等の出前授業件数などは、ほぼ横ばいとなっている状況でございます。

次に、基本目標3で掲げましたK P I につきましては、恐れ入りますが、1枚おめ

くりをいただきまして、2ページの上から3行目になります、3の4、研究開発型産業施設の地元雇用者数については、既に目標値を上回っております。

なお、その上、3の4、研究開発型産業施設の立地数につきましては、現在工事中の企業や操業開始準備中の企業は複数ありますものの、平成28年度に新たに操業を開始された企業はなく、かつ、1社が町外へ移転をされたことから、累計といたしましては、1社減の36社となっております。

次に、基本目標4で掲げましたKPIにつきましては、中ほどの4の3、特産加工品の新規販売箇所数や、その下、新規特産加工品の開発などは、既に目標値を上回っている状況でございます。

しかしながら、4の3、農産物直売所の年間販売額や観光イチゴ園などの入園者数につきましては、基準値を下回っているという状況でございます。

次に、基本目標5で掲げましたKPIにつきましては、2ページの下から3行目、5の1、ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ開催による誘客数や、次の3ページの一番下、5の3になりますが、町の健康に係るスマートフォンアプリのダウンロード数については、既に目標値を上回っている状況でございます。

しかしながら、2ページに戻っていただきまして、下から4行目になりますが、5の1、スポーツ事業等参加者数などは伸び悩んでいるという状況でございます。

以上が業績評価指標KPIの年次経過報告でございます。

なお、現状におきましては、これらの数値の個々の要因分析は十分にできておりませんが、特に基準値を下回っているものにつきましては、その要因を十分に分析し、改善すべき余地があるものは改善に努めてまいりますとともに、きょうの会議でのご意見なども踏まえまして、見直しを行う必要があると認められる指標については、必要に応じて、今後、見直しも検討をしてまいりたいと考えているところでございます。

ちょっと長くなりましたが、お配りをしております資料の説明は以上でございます。

それでは、ここでトイレ休憩をとらせていただきたいというふうに思います。こちらの時計で、ちょうど7時まで休憩とさせていただきます。7時にまた再開をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

〔休 憩〕

○大原企画調整課長

おそろいでございますので、再開をさせていただきたいと思います。

次第の4番、説明内容へのコメント、意見交換ということで移ってまいりたいと思います。

以降の進行につきましては、座長の杉岡先生にお願いをしたいというふうに思いますが、その前に、委員の皆様にご1点、お願いがございます。

ご発言をいただく際には、お手元のマイクの根元にあります緑色のスイッチを押していただいて、赤色のランプが点灯してからご発言をお願いしたいと思います。

なお、ご発言が終わりましたら、再度、緑色のスイッチを押していただきまして、ランプが消えたのをご確認いただきたいと思います。

それでは、杉岡先生、以降の進行をよろしくお願いいたします。

○杉岡座長

皆さん、改めまして、こんばんは。

福知山公立大学の杉岡と申します。

なぜ私がここにいるのかという話は、まず、先に自己紹介も含めてしたほうがいいのかなと思いますが、先ほど町長のご挨拶の中でご紹介いただきましたとおり、私、大学、大学院が同志社で、今出川で学んでおりまして、今川晃先生に非常にお世話になりまして、去年までで5冊、一緒に本を書かせていただきまして、ちょうど追悼の本を今、書いてるところでございます、非常に学生時代からお世話になったということで、私、専門も地方自治で同じ専門でございます、その関係で今川先生のピンチヒッターということで、この会議の本当であれば、中村先生あたりに座長を務めて

いただいたほうがいいとは思いますが、町長の思いと事務局からの依頼というところでございますので、今川先生には足元にも及びませんが、何とか進行のほうのお手伝いといいますか、そういうものをさせていただければと思っている次第でございます。

なお、地方創生ということに関しましては、私、与謝野町で座長を引き受けておりまして、この間3年間、策定から、今、総合計画の会長もしておるのですが、総合計画をどう伝えていくのかということもやっておりますし、また、お膝元といいますか、私、福知山市に家族で移住したのですが、福知山市では、全事業の棚卸しということで、情報の評価という部分も地方自治の中でかなり重要なことでございますので、やっております。

実は、精華町につきましても、私、99年に同志社大学に入ったのですが、それ以来、ずっとこのまちで、近隣で、京田辺というまちで約20年弱、まちづくりをしておりまして、大体、木津川から精華、京田辺はいつもうろちょろしたまちでございますので、比較的、今日ご紹介いただいたキーワードもほとんどわかります。ですので、福知山という名前から、なぜ福知山の人がここにいるのかという話になると思いますけれども、どちらかというと、京都南部のほうはまだ長くかかわっておいりましたので、その観点から、ご理解いただければと思います。

また、前任校、実は京都府立大学に去年までおりまして、去年の9月まで北山にあります府立大学にありました。精華町にキャンパスがございまして、そちらともやりとりをしておりまして、文系、理系でいいますと、私、完全に文系の人間でありますが、府立大学との関係で協定を結ばせていただきまして、いろんな取り組みを精華町さんとは一緒にさせていただきました。ご縁は感じている次第でございます。どうぞよろしく願い申し上げます。

それでは、さまざまな進め方がございます。本来であれば、時間が許せば、今日、ご紹介いただきました7事業ですね、それぞれ時間を区切って意見交換できたほうが

本当はいいと思うのですが、精華町さん、やはり特色がございまして、シティプロモーションという1本軸をですね、横軸を通していらっしゃると思いますので、恐らく7つの事業それぞれがシティプロモーションという切り口から議論ができるのではないかと思います。

先ほどご紹介いただきましたとおり、本当によく採っていらっしゃるなというぐらい、もうフルスペックで地方創生も採っていらっしゃるなという感じがいたしますけれども、この7つの事業をどこから切り取っていただいても結構ですし、加えて、資料の4でございましてね。KPIという、これは誰との約束なのだろうという、難しいところはありますけれども、少なくとも国との約束だけにはしちやいけないという問題意識の中で、何か数字を掲げた以上は、やはり結果が求められるということで、これについての進捗状況や課題提起、問題提起、何でも結構かと思います。去年の議事録も読ませていただきましたところ、今川晃先生の進行としましては、もう本当にざっくばらんに全体として皆さんにご意見を頂戴しながら、行政にフィードバックをするという方式で進めていらっしゃいましたので、今年もそれ踏襲する形で進めさせていただければと思っております。

それでは、どなたからでも結構でございますので、挙手で、この部分について質問、あるいはご意見、あるいはご提言ということでお願いできればと思います。いかがでしょうか。

中村先生、いかがでしょうか。

○中村副座長

じゃあ、ご意見、前座のように務めさせていただきたいと思います。

大変素晴らしいご報告をいただきまして、さすが精華町だなと感銘しております。

質問からさせていただければと思うんですが、先ほどの資料の3の4のところですけども、2020年の東京オリンピックも控えておりまして、大変多くの観光の方々、外国からお見えになっております。台湾の方ですばらしいPRをしてこられたという



ことで、この数が大体どれぐらいなのかということから、私が見落としている可能性もありますけれども、K P I の中で精華町はどのあたりに位置しているのかとか、どれぐらいの見込みを今後お持ちなのかとか、そういったことがもし、概略でも結構ですけれども、おわかりであれば、教えていただけますでしょうか。

○杉岡座長

ちょっと踏まえていただきたいのが、皆さん、お手元の資料に多分あるかと思うんですけど、観光入込客数ですね、こちらが精華町さん、大体70万人というふうな現在値だったと思いますけれども、12ページですかね、この地域創生戦略の12ページに、平成25年が57万8,000人ということですね。ちょうど京田辺の倍ぐらいだと思います。平成31年に70万人を目指すということが掲げていらっしゃると思いますので、これに本当に近づいていくのかという中村先生からのご指摘かなと思います。よろしく願いいたします。

○西川企画調整課課長補佐

こちら資料番号の3の4の相楽圏域におけますインバウンド観光事業でございますけれども、こちらのほうは、まず、切り口といたしましては、関西国際空港からリムジンバスが出ておりまして、その終着駅がけいはんなプラザにあると。これは一つの強みであるというふうに考えておりまして、この関西国際空港からの外国人観光客の皆様が、今はけいはんなプラザに泊まれることは泊まれるのですが、泊まれた後、早朝にバスに乗られて京都市内や奈良市内に出ておられるケースが多いというふうにも伺っておりまして、これを何とか滞在時間を長くして、その上で、この精華町を入り口といたしまして、相楽地域全体にインバウンド効果が図られると良いんではないかという、そういう考えが前提でございます。その上で、お茶の京都と絡めるという意味もございまして、お茶文化とか、訪日観光客が多いという観点から、今回、台湾という場所をターゲットといたしまして、ひとまずはPR活動を行ったというところでございます。その中ではアンケート調査等も行ったというふうに聞いておりま

して、その中では、もちろんこの相楽地域の知名度というものは余り高くなかったというのは事実なのでございますが、関心としては非常に高かったというふうに聞いておりました。現時点、この事業を行ったことによって、即座にK P I への反映というものはできてないように思いますけれども、今後ですね、外国人観光客の方々に1時間でも2時間でも長く相楽地域に滞在をしていただくということを継続して取り組みを進めていくという部分が課題でもあり、この事業の方向性であるかというふうに考えております。

○杉岡座長

その観光入込客数のカウントは、去年度の統計資料でも結構なのですが、伸びていらっしゃいますか。今、時間の話だったのですが、57万人が平成25年だったということで、これは多分K P I に入っていないので、数が把握されていないかもしれません。といいますのは、京都市全体は伸びておりますので、京都全体でいうと、今、7,000万人から8,000万人、そのうちの6,000万人ぐらいは京都市内でとどまっておりますけれども、非常に分母はふえておりますので、精華町までその余波が生じるかどうかの確認でございます。

○西川企画調整課課長補佐

数字といたしましては、残念ながら、まだちょっと横ばいぐらいで、58万人程度という数字になっておまして、このあたりがまだもうちょっと事業効果が出てくるまでには時間がかかるのかなというふうに思っております。

○杉岡座長

観光消費額のほうも、数字把握されてますか。

○西川企画調整課課長補佐

すみません、観光消費額については、手許に資料を持ち合わせておりません。

○杉岡座長

中村先生、いかがでしょうか。

○中村副座長

ありがとうございます。大体の割合で、例えば台湾出身の方が何パーセントとか、中国本土の大陸の方、何パーセント、あるいは欧米の方とか、そういったものっていうのは統計であるのでしょうか。

○西川企画調整課課長補佐

外国からの観光人口の内訳としては、そこまで把握してないのが現状でございます。

○杉岡座長

先ほど、たしか資料の中で台湾との連携っていうお話がございました。それによって、今、中村先生のご質問あったとおり、アジア系、台湾が多いというのは、定性的な見た感じの印象で結構なのですが、そのような受けとめでよろしいのですか。

○西川企画調整課課長補佐

台湾に限ったものではございませんが、少なくともアジア系の方々の流入が多いというところでございます。

○杉岡座長

確かに去年の議事録読んでましたらね、観光協会がないというお話の中から、じゃあ、そういった観光のカウントを誰がどういうふう把握していくのかということとは精華町の課題であると、去年の議事録載っておりましたので、それにおいても、担当課はちなみにどこの課になりますでしょうか、観光セクション、企画になりますか。

○西川企画調整課課長補佐

観光の所管といたしましては、事業部の産業振興課になります。

○杉岡座長

産業振興課さん。今、中村先生の問題意識をどのようにカウントなり、把握をしていくのかという、今後の課題を提起いただきました。

○中村副座長

大変このインバウンド観光事業、素晴らしいなと、「台感！ニッポン。」というこ

とで、私も個人的には台湾大変好きで、お茶どころでありまして、そういった意味でも、本当に連携をされてるって、さすが目のつけどころが精華町さんらしいなと思って、大変感銘を受けておりますし、実際に近鉄に乗っておりますも、よく観光客の方乗ってこられますので、私、今回、有識者というよりは、自分が一人の観光客の視点で物を申し上げたいなと思うのですけれども、例えば京都駅にインフォメーションセンターがあって、この間、たまたまなのですが、イスラエルの方、学会で知り合った友人なんですが、ちょっと京都に行きたいと。また、来ると言っているのですが、その友人のためにパンフレットをちょっと、地図とか、いろいろ要りますので、インフォメーションセンターに行ったところ、例えば、私が見落としてる可能性ありますが、こういったものがぱっと目の前にはなかったんですね。で、きょう、拝見しまして、こういう精華町が載っていて、地図もすばらしいものがあるって、これをもし京都市内、非常に観光客多いんですけれども、ああいったインフォメーションセンターに置いていただくと、精華町もPR度がぐっと上がるなど。今回、ツアー・オブ・ジャパンの自転車の、うちの学部の主任会等でも、非常に定期会のPRしていただいて、我々のほうにも入ってきまして、ああ、もう本当によかったなとみんなで喜んでいたんですが、それと、私は、京田辺、新田辺ですね、おりたところに旗もありましたし、非常にPR度がすばらしかったなど。それと同時に、もしインフォメーションセンター、今後のあれなんです、私が見落としている可能性が非常に大きいのですけれども、いろいろとそういったものがあると、観光客、もちろん関空のほうからシャトルで来ていただくっていうの、一つのルートですが、京都市内の京都駅、JRのあたりから乗って行って、来ていただくと、ますます活性化するのではないかなと個人的に思っています。

○杉岡座長

どうもありがとうございます。最後、ご意見とともに、提案もあったと思いますけれども、こういった冊子がどこでとれるのかと。今日はお茶の京都というお話がござ

いましたけれども、お茶の京都だけで、入り口で置いていても、関空、あるいは京都駅ですね、このあたりのPRってものがないと、どうしても漏れが出てしまうじゃないかというご懸念だと思いますけども、ちなみにということで、その販路ですね。どこでこれが手に入るのかという、これはちょっと質問も兼ねておられたのかなと思うんですが。

○西川企画調整課課長補佐

まっふる、なんですけれども、先ほどご指摘のありました京都駅の観光案内所につきましては、実は配架をいたしております。ただ、毎回数百部ずつ持つては行ってるんですけれども、おかげさまで、すぐなくなってしまうということで、最初に1万部を作ったんですけれども、1カ月半でなくなってしまったということでございまして、現在、2万部を増刷したという段階でございまして、京都駅を含めまして、もちろん町内の駅関係でありますとか、各所で配布をいたしているところでございます。

○杉岡座長

先生、よろしいでしょうか。

○中村副座長

はい。

○杉岡座長

去年もそういった1万冊で、すぐになくなるっていう話がありましたので、2万冊を用意されているということでございますね。あとは関空とか、さまざまな入り口がまだあると思いますので、開拓を引き続きお願いできればと思います。

じゃあ、続きまして、ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。特に順番決めません。

じゃあ、森田様、どうぞ。森田委員、どうぞ。

○森田委員

ツアー・オブ・ジャパンの関係でなんですけれども、たまたま私、見させてもらっ

たのですが、コースの沿線、地元地域で地域の役員をしていたのですが、それで、当日はたくさんの人手で賑わっていますが、平日でも自転車愛好家の人はもう毎日でも走っているわけです。土日になったら、特にたくさんのお客さんが走っていますけれども。見ていると、休憩したり、地域の人と交流をしたりとか、そういう機会の場所がないという状況なのですね。だから、こうした大きなイベントがせっかくあるので、こうした機会をうまく活用して、ここにもありますように、交流人口だったりね、地域の活性化につなげたり、そういうことが十分できるチャンスかなと思うんですね。だから、そういう意味で、課題にも出ていますが、そういう交流をしたり、また、場合によっては地域の特産品を地域の人がつくって販売をするとか、そんなことも可能かなと思うんですけれども、悲しいかな、そういう場所や機会がないわけですが、その辺のことはよく考えてもらっているのかなと、今後の課題としてね。ちょっとその辺、聞かせてほしいなと思いますけれども。チャンスやと思うんですけど。

#### ○杉岡座長

特に南山城村には道の駅ができましたけれども、このコースの中で、地域の皆さんとどこで実際に自転車乗る方が交流なり、会話でもいいですね、できるのかというお尋ねだと思います。よろしくお願いします。

#### ○大原企画調整課長

ただいま、ツアー・オブ・ジャパンを生かした地域の活性化という部分でご意見をいただいたんですけれども、今、ご意見いただきましたように、やはり5月の1日だけのレースだけで5万人はお越しになるんですが、それだけではやはりもったいないと。それ以外の、レース以外の日に、今おっしゃいましたように、平日、あるいは土日を中心に、自転車の愛好家が実際何人ぐらい増えているかという、そういう計測をしたわけではないんですが、目に見える形でその愛好家の方が増えてきているということは事実でございまして、そういった方々が単に精華町を通過をされるだけという

ことではやはりもったいないということで、実際にそういった方々に足をとめていただいて、できるだけお金を落としていただいてということで、地域の活性化につなげていくということについては非常に重要なことであるということで考えておりまして、やはりそういった部分では、沿道の例えば公共施設であったり、あるいは沿道の店舗であったりということを中心に、例えばそういった常設型のサイクルラックなども置きながら、愛好家の方が気軽に足をとめて、場合によっては地域の方々と触れ合っていたいてというふうなことができないかということで、我々としても、今現在、検討しているところでございまして、いかんせん、そういったことをやるにはやはり財源が必要になってまいりますので、できるだけ国なり、京都府のそういった補助金なんかを活用しながら、そういったことが実現できるように前向きに取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

○杉岡座長

これ実際にT O Jに参加された方がどういうものが欲しいとかっていうのを一気に聞くようなことって、できないのですかね。

○大原企画調整課長

実際には、そういった方々と意見交換をする場というのは、今、現状がないというふうな状況でございまして、やはりそういった方々のニーズがどういうふうになるのかというのは、やはりちょっとそういう場でぜひお聞きをして、実現をしていくような方向で進めていきたいなということでは考えております。

○杉岡座長

森田さん、いかがでしょうか。今の回答でよろしいですか。

○森田委員

はい、大丈夫です。

○杉岡座長

今、福知山で福知山マラソンというものが、もうあと2カ月ぐらいでありますけど

も、マラソンとかで来はると、家族でガガッと来られて、旦那さんは一生懸命走って、奥さんと娘さんとか息子さんはまちなかで観光、お城行ったりとか、スイーツを食べにいたりしているのですね。ですから、本当に家族で来たときに、自転車以外の多分楽しみ方とか、今度は付加価値で展開し得ると思います。ぜひとも声を実際に聞いてほしいなと思いますね。よろしく願いいたします。

ほかの皆様、いかがでしょうか。ぜひお一人1回は発言をお願いできればありがたいなと勝手に思っておりますけども。

じゃあ、古瀬様、よろしく願いします。

#### ○古瀬委員

ふるさと案内人の会で、月1回、毎月22日に精華町を中心に町歩きのイベントを仕掛けて、来られる方をご案内しているのですが、その中で、先ほども出ていました都市ブランドの要というか、そういう中で、けいはんなプラザに日時計がごぞいますね。それで、その日時計のレーザー光については、七、八年前ぐらいですかね、中断していたのが。まちづくり協議会の皆さんが再開されて、それは注目されているのですが、もともと日時計って、一体あそこにああいうふうにあるのが何故なのかという、当初、作られた経緯、何であんなもんがつくられたのか。いろいろ案内している中で疑問に思って、設計された箕原さんという方だそうなのですが、一度話をもうちょっと聞かせていただこうじゃないかと。ということで、けいはんな文化学術協会の高橋さんにちょっと相談に行ったのですが、一度、じゃあ、その名前も、箕原さんという名前も教えてもらったのですが、ちょっと話しして、呼んで、こちらで講演会をやらしてもらおうというふうな話が、ちょっと進んでいるのですが、我々、言い出しっぺで、話聞かせてほしいという言い出しっぺなので、どうして呼んできてという、こちらの宿泊費みたいなものとか、交通費なんかも調整していかないといけないというふうなこともあるんですが、それはそれとして、一応11月17日に来ていただく話になりつつありまして、そういうことから、大きなシンボ



ルだと思えるんですけども、それがなぜあんなものをつくられたのか。で、今、その考え方というか、そこに込められてる考え方がどうなのかというふうなことをちょっとまたいろいろと議論を巻き起こしていきたいというふうに思ってるんですけども、ただ、いかんせん、我々、手元に何もないので、いろいろまたそういうことに係る資料とか、調べて行こうと思ってるんです。

○杉岡座長

古瀬さん、今のお話で、今日の事務局からご提案いただいている7つの事業で、今、絡めそうな何か、多分自転車とか、定住とか、お茶とか、いろんなキーワードあったと思うんですけど、何かございますでしょうか。

○古瀬委員

やっぱりもともと、ですから、学研都市をつくったときのもとの考え方ですね。そんなところのことを、だから、何になるんですかね。

○杉岡座長

資料3の3がけいはんな全体の都市ブランドということで、こういうところに例えば日時計の話みたいな話が、コンテンツいろいろ書いていらっしゃいますけども、借りるのは、今年度はもう無理です。来年度ぐらいにアイデアとして活用できないかというのは、今、ご提案だったんじゃないかなと思うんですが、事務局、いかがでしょうか。

○大原企画調整課長

ありがとうございます。ただいま、けいはんなプラザの日時計の活用と申しますか、いう部分ですが、今、この「ぶらりまち歩き」という冊子のちょうど17ページの右上のあたりですかね、ちょうどけいはんなプラザの日時計のご紹介をさせていただいております、今、古瀬さん、おっしゃいましたように、文字盤の面積が世界一ということで、ギネスブックにも載ってるということで、この日時計の針の部分ですね、ちょうど今、グリーンでちょうどラインが出てますが、こういう形で現在、レーザー

光線が日没後、出てるということでございまして、もともとこれできた当時、けいはんなプラザができたのが平成5年とか6年あたりだと思うんですが、そのあたりの中には、これが実際出てたんですけども、その後、機器が故障して、長らくレーザー光線が途絶えたままの状態だったんです。そこに、平成の17年とか18年度以降ぐらいに、新たに立地をしていただいた企業さんを中心にまちづくり協議会というものをつくられて、で、このレーザー光線の復活に向けて取り組んでこられたということで、今現在はこういう形でレーザー光線がともっていますんで、非常にこの学研都市におけるシンボルということで親しまれているんですけども、これをやはりいかに活用していくかと。貴重な地域資源として活用していくかということはやっぱり課題でございますので、今おっしゃいましたように、当時の設計された方にお越しをいただいて、実際、そのときの経緯をお聞きするということが今後の活用方策をいろいろ考える上では非常に有意義な取り組みであると思いますので、そういった部分では、どういう形でそういった講演会等ができるかという部分については、また、その辺についてはいろいろとまた我々としても知恵を絞っていきたいなということで考えておりますので、ぜひそういった部分でのタイアップをできる限りしていただけたらというふうに思いますので、よろしく申し上げます。

#### ○杉岡座長

ありがとうございました。時計でね、からくり時計とか、福知山にも花時計ってあるんですが、道後温泉の入り口の商店街のところにからくり時計があって、皆、ここ動き始めると、子供たちがずらっと並びますし、これ世界一ってすごいと思うんですよ。久御山町にもラジオ塔がありますが、京都タワーよりも3メートルか4メートル高いということで、町長、自慢されてますけれども、何か日本一とか、京都一とかってことはシティプロモーションに使えると思います。ぜひ京町セイカちゃんこの日時計がどう絡めるかみたいところで、ぜひ広報特集を組んでいただくとか、何か活用をいただきたいですよ。住民の皆さんの力だけではできない部分あると思いま

すので、ぜひとも企画調整課でお願いしたいなと思います。

先生、どうもありがとうございます。

ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。まだ、2回目の発言でも結構でございますので。

鹿谷支店長、よろしく申し上げます。

#### ○鹿谷委員

京都銀行でございますけれども、町長のほうからもありましたように、精華町さんとは地元の金融機関として精華町との魅力発信パートナーシップ協定というものを結ばせていただいて、その一つのイベントとしてハッカソンというものをイベントとしてさせていただいて、こちらのほうにサブカルチャー関連のイベントを実施というのをK P Iの指標というふうにされておられて、それがもう既にブースのほうを出されているというようなことですが、今後、こういったものをさらにこういったふうな形でイベントのほうをされていくのかっていう点が一つと、それと、もう1点、我々、金融機関でございますので、事業所さんとお話をいろいろさせていただく中で、やはり学研都市のけいはんな道路の大通りのところがほとんど、ほぼ企業誘致のほうが進んでいって、なかなか新たな土地等の部分が出ていうようなお声もよく聞きますので、その辺もし、精華町さんだけではなかなか解決しない部分だと思いますけれども、学研都市の行く先行きの未来みたいなものもお話聞かせていただければと思います。

#### ○杉岡座長

よろしくお願いたします。資料3の1に関係する部分ですね。

#### ○西川企画調整課課長補佐

まず、前段の部分のサブカルチャーイベントの関係の部分でお答えさせていただきたいなと思いますが、先ほど申し上げられたように、京都銀行様と連携協定を結んだ第1弾の事業といたしまして、RESASを活用した地方創生をテーマに、ハッカソ

ンイベントと、それにあわせた成果発表と地域課題を語り合うセミナーというものを7月から8月にかけて行ったところでは、また、このハッカソンというのが一つのキーワードになっておりまして、精華町では、今年の1月に、先ほども申し上げました、ギネスブックにも載っている世界規模でのハッカソン、グローバル・ゲーム・ジャムという、一定期間の間に一つのゲームをチームでつくり上げるという、技術者とデザイナーさんとプランナーというものが集まって行うイベントがあったんですけれども、それを自治体として会場を提供いたしまして、地域の主催として日本会場の一つを担ったという部分でございます。こちらのほうですね、開催してみまして、参加者の方、集まっていたのかなというふうな不安はあったんですけれども、やってみますと、京阪神を中心とした社会人のプログラマーの方々が集まっていたりとか、連携協定を結んでおります大学機関、特に精華大学さんの場合、今年多かったんですが、そこからデザイナーの勉強をされてる学生さんが数多く集まって、ほかの地域のハッカソンですと、プログラマーさんばかりが集まって、デザイナーさんがほとんどいなくて、プログラムはできるんですけれども、丸とか四角とかが動くようなゲームばかりだったんですが、この京都会場につきましては、非常に完成度の高い、見た目でいうと、本当に売り物に近いようなゲームが24時間で開発されたというふうな実績がございます。先日も学生に限ったハッカソンということで、学生ゲーム・ジャムということで、こちらに関西地区の学生さんが中心になって、そこに将来のプログラマーを育成したいという思いから、社会人のプログラマーさんが参加されて、精華町のけいはんなプラザを会場にゲーム開発を一定行って、その発表会を行うと。こういったハッカソンとかアイデアソンというようなイベントにつきましては、この学研都市という土壌を生かしまして、さまざまなイノベーションを生み出すきっかけづくりを町として行って、それによる誘客の拡大というものと、それに伴いますこの学研都市で何か仕事をしたいというような動機づけにもつなげていきたいなというふうに考えておりまして、この取り組みにつきましては、この地域創生の5年間の取り

組みの中で継続して引き続き進めていきたいと考えております。

また、あわせて、サブカルチャーの取り組みといたしましては、今はせいか祭りにあわせまして、SEIKAサブカルフェスタという形で開催をしております、こちらのほう、今年で3回目を迎えることとなりますけれども、現在のところ、コスプレイヤーさんの参加とか、痛車と呼ばれるラッピングをした車を集めての展示会などを去年からも始めておりますけれども、ようやく多くの方、うわさを聞きつけてという形で、遠方から、遠くは、私が聞いた限りとか、ツイッターなどの反応を見ますと、遠くは長崎や北海道からわざわざお越しいただくような、ふだんの地域のお祭りでは来ていただけないような層の方々が来ていただいているというような実績もございますので、こちらのほうも秋だけでなく、春とか、そういった時期にも開けていけたらなというふうには考えておりますが、そういったことも考えて、通年でこういったイベントが開催できるようなことを検討してまいりたいというふうに考えております。

○杉岡座長

グローバル・ゲーム・ジャムだけで何人ぐらい、この2日間でいらっしゃったんですか。

○西川企画調整課課長補佐

参加者としましては、20名程度になります。そのうちプログラマーの方、社会人のプログラマーの方が5人ぐらいで、残りの方は全て学生さんが集まったということになります。

○杉岡座長

お客さんとして見に来るみたいな形。

○西川企画調整課課長補佐

ギャラリーの方もありますけれども、そういうクローズな空間のところですので、押し寄せるといったことではないんですが、やはり関心のある方が集まってこられるというふうなものです。

○杉岡座長

後段のほうで精華大通りの話がございましたので、ちょっとお願いします。

○大原企画調整課長

精華大通りを中心とします学研の精華・西木津地区というクラスターですね、これがけいはんな学研都市の中核的なクラスターということで、精華町域では光台と精華台地区が関係するんですが、そちらにつきましては、今ありましたように、非常に企業立地のほうが好調に推移をしてきてる状況でございまして、今、見た感じ、空き地は多少まだあるんですけれども、ほぼとといいますか、買い手といいますか、既に立地予定企業というのは決まっている状況でございまして、特に今年の4月に新名神高速道路が一部開通をして、京奈和自動車道と第二京阪が直結をして、最終、名神のほうに、いわゆる国土軸に直結をしたという状況もありまして、非常に企業からの引き合いがこの京都南部地域、非常に多い状況なんですけど、残念ながら、精華町域においては企業様にご紹介をさせていただく土地がないという状況が続いておりまして、一日も早く新しいそういう用地を確保していかなければならないというのが今の喫緊の課題になっている状況でございます。

そうした中で、次のステップといたしましては、精華町の北側、北部になるんですが、学研の南田辺・狛田地区という京田辺市とまたがるクラスターがあるんですが、そちらのクラスターをできるだけ早く事業に着手をしていただけるように開発を促進していくということで、現在、京都府さんなり、開発事業者さんとそういった調整をさせていただいているという状況でございます。

あと一つは、もう一つの課題といたしますか、精華・西木津地区と奈良地域の学研高山地区というクラスターがあるんですが、そちらをできるだけ早くにつないでいかなければならないというようなことも課題になっておりまして、そういったクラスター間の接続とあわせて、その間の土地活用という部分についても、これについてはできる限り追求をしていきたいなというふうに考えているという状況でございます。以上

です。

○杉岡座長

よろしいでしょうか、支店長。南田辺・狛田あたりは本当に歩道がほとんど、府道22号線、ない状態でございますが、道路も非常に大事になってきますよね。

前段のほうで、ちょっとこれがアイデアベースも含めてなんですが、私、舞鶴のまちもちょっとかかわっておりまして、舞鶴に今、艦これという、アニメ、ゲームから、毎年聖地化をしまして、今年も私、かかわりましたが、8,000人、1日でするのですね、コスプレをされたりっていうことで。私が思いますのは、北部だけでおしまいでは帰るのじゃなくて、ぜひ1日目、舞鶴に来ていただいて、2日目、精華町来ていただいて、多分1時間半ぐらいで行けますので、車で。そういうふうな何か人の流れができてくると、山城だけで固まると、お茶のコースだけでということよりは、実は舞鶴、お茶の生産地としては京都ナンバーワンなんですけれども、量だけでいうとですね。それも含めて、何かこういうふうなネットワークがもっとできればなど。ただ、それをつなぐ人が誰もいませんので、舞鶴の職員いつでもご紹介しますので、何かそういった両方のまちを知ってもらって、何か交流が芽生えたと、また、それにさらに新しいコンテンツがまた生まれるのじゃないのかなという可能性、私、今日、感じましたので、ぜひまた、紹介させてください。

それでは、ちょっとごめんなさい、あとお三方、まず、ご発言いただければありがたいなと思うんですが。

目が合いました。吉田会長、よろしく申し上げます。

○吉田委員

ご指名ありがとうございます。

実は3年前か、今、このシティプロモーションの会議で初めて、この会議で実は経済産業省の近畿経済産業局の森家課長補佐が来られていまして、何かといいますと、そのときにはもう既に経産省の国の支援事業の認定をもらおうということで申請はし

ていたんですけども、図らずも落ちまして、ちょうどこの会合のときに森家課長補佐とお会いしまして、盆の最中に近畿経済産業局のほうに行きまして、ご指導を伺いに行ったわけなんですけども、経営支援事業は、去年に京都府で4番目に精華町商工会いただきました。あれは、5年計画なもので、今年は精華町の未来を考える会をどうでも立ち上げたいということで、今のこの5つの基本目標に載っていますけれども、4番目、地元の観光ブランド力の強化、ここの部分ですね。我々、商売人は何か知恵を出したいということで、第2回目のシティプロモーションのこの会議にも、今の駅の連絡橋を何とかアンテナショップみたいな格好で、見える形で、掲示板はあるんですよ、先ほど先生言われましたように、こういうものをアンテナショップ的なものでしょう、机1台でも置かせてもらったら、何か協力はさせてもらいますよということ提案させてもらっています。

それと、最後に、実はこれ余談なんですけども、先生、福知山ということで、福知山は酒呑童子というどぶろく特区を一番にとられたんですよ。ずっと2年置きぐらいに、南丹市ぐらいまでは特区が来てるんですね。で、いよいよどこかといいますと、この相楽地域で5市町村の商工会長寄りまして、いよいよ相楽郡地域で特区を申請してですよ、相楽郡でどうですかということを意見、提案したんですけど、なかなか難しい面がありまして、5つそろえるのは。ですから、この場で何を言いたいかというと、行政側にもちょっと知恵を出していただいて、精華町独自ででもいいですから、どぶろくの特区申請を、これ商工会だけではもうとても無理な話なので、先生ご存じだと思んですけど、いろいろなクリアしなければいけないことはあるんですけど、ありがたいことに、精華町はブランド米、町長のお膝元でも北稻が全国でも有数なぐらいおいしい米がとれるんですね。それと、精華町は地下水が豊富にあります、それと、3つ目のこうじですね、こうじは、華工房という町の施設があるんですけど、そこでも既にこうじはつくられています。だから、その3つがもうそろっている以上、いろいろ知恵を絞って申請していけば、精華町にもどぶろく特区ということで、29



年は無理としても、時代が変わりますけども、平成30年は来ないと言われてはいますけどね。そのあたりで一応行政側にもちょっと知恵を出してもらって、一緒にやってもらったと思うんですよ。そのあたり、ちょっと含んどいてもらって結構ですよ。そんな質問じゃないですから、これは。以上です。

○杉岡座長

私は舞鶴へどぶろく飲みに行くんですけども、このまちには地下水もある、こうじもあるという地域資源ね。他方で、福知山もスイーツのまちという認識をしていまして、1万円ロールとか、あとは、世界のパティシエ、世界一のチョコレートのマスターとかいるんですが、あんまり多岐にわたり過ぎると、何を推し出したんやって、またおしかりを議会から受けますので、そういう意味においては、どぶろくで行くなら、もうどぶろくってしなきゃいけないところもあると。このあたりは、どうなのでしょう。どぶろくの可能性も含めて、はい。

○大原企画調整課長

ただいま吉田委員のほうから、精華町のシティプロモーションを進める上で、非常に心強いご発言をいただきまして、非常に感銘を受けたんですけども、どぶろく特区ということで、非常に斬新なアイデアといいますか、いう部分で、精華町のお米なり、地下水ですよ。それで、こうじを使ってということで、非常に斬新なアイデアということで、もしこれが実現すれば、まさに精華町のシティプロモーションにもつながるという部分であろうかと思っておりますので、この部分については、また、いろいろと意見交換をさせていただきながら、できるだけ実現ができるような方策を行政としても模索をしていければということで考えておりますので、また、そういった意見交換をできるような場を設定をさせていただければというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

○杉岡座長

吉田会長のアイデアなんですけどね。実は西川さんの部署で、京町セイカちゃんの

声の部分ですね。ちょっと今日、気になっているのは、カタカナが多い場所だということ、きょうの第一印象で思ったんですけども、でも、カタカナをしっかりと活用できてるまちでもありますので、クラウドファンディングというインターネットで、昔の講ですね、伊勢講や頼母子講や無尽講の現代版という形でございますけども、一つの目的で多くの皆さんにお金を出資してもらおうという形なんですけども、そういった中でお金集めていくっていう方法もたぶん京都府内でも初で、行政がそれを集めたというふうな事例のまちでございますので、例えば、どぶろくの可能性、ちょっと私も不勉強で、まだわかりませんが、共感いただける人がいるのであれば、多分お金は集まるんですよ。なので、地方創生のお金とか、行政の一般財源のお金を使わなくても、できる可能性はあると思うのです。ただ、どれだけ魅力的なのか、内容があるかどうかということだと思いますので、そのあたり、ちょっとまた勉強させていただいて、ぜひとも、何か非公式の勉強会でもいいと思いますし、もっと言えば、ふるさと納税の使途として、返礼品として、それが届くとか、ようやく福知山も今年からスイーツの返礼品を入れましたので、ちなみにふるさと納税は、精華町さんは幾らぐらい集まっていらっしゃるのですか、年間で最近は。

○西川企画調整課課長補佐

正確な数字について、今はちょっと持ち合わせておりませんが、残念ながら、精華町はどちらかというと、ふるさと納税は赤字になっていると。よそに出ていっている部分のほうが多いと。

○杉岡座長

精華町の皆さんがほかのところにするのですか。

○西川企画調整課課長補佐

よそに出ていっている部分が多いという部分で、そのあたりは課題として認識をしております。ただ、精華町は、先ほど杉岡先生のほうからありましたように、ふるさと納税につきましては、返礼品メインのふるさと納税というものにつきましては一定

距離を置きまして、クラウドファンディングという形式をとりまして、何がやりたいのかというものをまず前面に出しまして、それに賛同していただける方に寄附をいただくと。そのお礼として、その成果をお渡しするというようなものを行っておりまして、京町セイカの声なり、衣装なりをつくるというプロジェクトを立ち上げて、目標の倍ぐらいの金額をいただいたというところです。

○杉岡座長

京町セイカちゃんのキャラクターづけとして、好きな飲み物とかってもう決まっているのですか。

○西川企画調整課課長補佐

そこで、ちょっと続いて申し上げようと思ったのですが、ちょうど精華町では、昨年に特産の洛いもを活用いたしました洛いもの焼酎ですね、その開発ができて、その販売、現在、好調というふうに聞いております。こちらのほうのプロモーションと申しますか、PRというものも強く進めていくべきかなというふうに考えておりまして、京町セイカですね、実は設定年齢が23歳ということで、これも意識して設定した年齢でございまして、お酒も飲めるということで、イラストも焼酎を持ったイラストなども作りまして、ちょうど先日のコミックマーケットで焼酎を持った缶バッジとか持っていったら、非常に人気があって、お酒の飲めるキャラクターというふうなものも人気の一つということでございますので、そういったものと絡めながら、お酒についてもそういったクラウドファンディングが使えるのではないかと申すことで、今回は、焼酎なんかも絡めたクラウドファンディングの実施なども検討しているところでございます。

○杉岡座長

それもおもしろいですね。会長、例えば女性の好きな飲み物って、結構チューハイとかハイボールって場合が多いですけど、京町セイカちゃん、焼酎とどぶろくが好きだっというキャラクター設定は、これはこれで結構ギャップがおもしろいので、受け

る可能性ありますよね。常山さん、いかがでしょうか。

○常山委員

町長が冒頭、ご挨拶していた中で、K I C Kに子どもの拠点を整備する事業がというお話がありましたね。それに関連するのですけども、あそこに、K I C Kに子ども、K I C Kキッズブースとか、そういうセンターとか、そういう名前で今、いろいろな検討していらっしゃるようですけど、これ、私の個人的な思いなんですけれども、子どもに限らず、子どもに限ったって、幼稚園児から中・高校生まで絡むし、小さい子どもの場合はもちろん保護者が絡むし、子どもに限らず、もっと地域の住民が、あのK I C Kという場所をもっといろいろ使えるように、京都府が所管する事業でなくても、精華町としてどんどん意見を述べていただきたいなという個人的な思いがあります。

それに関連して、資料3の7ですけど、K I C Kを活用した施設整備のための京都府や京都産業21との事前協議及び入居申請に向けての資料作成ってありますね。これは、いわゆるサブカルチャーに関連したというふうなことを考えてらっしゃるのでしょうか。

○杉岡座長

これは、ちなみに、どこに出したのかもあわせてご説明いただければ、ありがたいなと思います。

○西川企画調整課課長補佐

この京都アカデミック産業創造事業で、K I C Kを活用した施設整備のための基礎調査ということで出したものが、先ほど町長のご挨拶にもございました、今年度で進めさせていただこうとしていますK I C Kでの創作活動の支援でありますとか、科学のまちの子どもたち推進のための拠点として整備する内容につながったものというものでございまして、こちらは、今、K I C Kの指定管理者を京都産業21さんが担っておられるということで、そちらとの調整を進めまして、今年の頭ぐらいに入居申請

といたしますか、K I C Kの一部を京都府からお借りをいたしまして、そこに精華町として拠点整備を、地方創生交付金を活用しまして、整備を行うという部分に何とかたどり着けたというところでございます。

先ほど、常山様のほうからお話ございましたように、K I C Kが京都府に譲渡されてから、なかなか地域の方々との交流が少ないという部分につきましては、町としても考えておりまして、むしろ今回の施設整備というのは、その風穴をあける意味でも、取り組んでいくべきものというふうに考えておりまして、子どもに限ったというものではなく、科学のまちの子どもたち自身が、子どもに限定した取り組みではございませんので、そういったものと、また、サブカルチャーの側面から、創作活動、クリエイターの方を支援できるようなワーキング的なスペースなども用意したいというふうに考えておりまして、できるだけK I C Kにいろいろな方々が集まれるような環境づくりを進められればというふうに考えております。

○杉岡座長

よろしいでしょうか。

○常山委員

大変結構な話で、K I C Kは京都府が、来月もありますけど、エキスポ、ああいう国際的なイベントで、それは非常にいいと思うのですよ。いいと思うのですが、事前に申請しないと入れないですから、ふらっと行けない。もっと普通に市民がふらっと行けるような場所であってほしいなというふうに思っていますので、よろしく願いします。

○杉岡座長

ちょっとイメージなのですが、私、北部の住民でありますので、福知山市に科学館というのがあるんですね。そこにも天文台もありますし、プラネタリウムもありますし、かつ、化学のノーベル賞をとられた下村先生の生誕の地ということもあって、そういったゾーンとか、いろんな子どもたち、要は観光客が福知山市も90万人しか

来てないのですけれども、実は利用の9割がもう住民の皆さんなんですね。だから、子どもが遊ぶゾーンもあります。で、科学を勉強できるゾーンもあります。で、天文で遊べるゾーンもあります。いろいろなところで住民の皆さんが何を望んでいるのかって、結構うまいこと、最初はあれ赤字だったのですが、ようやく入館者数も桁が伸びてきましたし、舞鶴の赤れんがパークもそうでありますけど、住民の皆さんの利用をどのように促進するかっていうの、本当に先生がおっしゃったとおり、利用の申し込みがイベントに要るとか、そうなってくると、どんどんと距離が離れていきますので、ふらっと立ち寄って見られるとか、遊べるっていう空間をどういうふうに組み立てるか。これ京都府マターなのですが、そこに精華町さんがうまいこと、いい意味で精華町ブースとか、何か領土拡大していただいて、少しKICKが身近な、けいはんなプラザと国会図書館とKICKはもういつでも、精華町の皆さんであれば、もう散歩がてら行けるんだという空間がやっぱり必要ですよ。

○常山委員

余計なことかもわからんけど。今、日本電産が建設中ですよ。あれができれば、来年、500人規模が来ますから、また大分景色かわってくるので。

○杉岡座長

そうですね、家族で来ますからね。

○常山委員

だから、その辺いろいろ、大分これから変わっていくと思いますよ。

○杉岡座長

ありがとうございます。

それでは、外山さんもぜひご発言お願いいたします。先ほどの経産省の特区の話にございましたが、もし聞き取れるようであれば、少しコメントをいただければと思います。

○外山委員

特区に関しては、控えさせていただきます。

地方創生について、現状とこれからお考えいただきたいこととお話しさせていただきます。その上で、施策をいくつか紹介させていただければと思います。

まず、現状についてです。先ほどの御説明から、全体的に順調に進んでいる印象を持ちました。今年度が、計画期間の折り返しの地点になりますので、引き続き、地方創生を進めていただければと考えます。

続きまして、施策紹介です。先ほど、企業立地について御説明いただきましたので、企業立地に関連する施策を御紹介します。この7月に従来の企業立地促進法の改正法として、地域未来投資促進法が施行されました。この法律は、地域の特性を活用した事業の生み出す経済的波及効果に着目し、これを最大化しようとする自治体の取組を支援するものです。この法律では、製造業のみならずサービス業等の非製造業を含む、幅広い事業を対象としています。

この法律を御活用いただくには、まず、自治体が基本計画を作成し、国がこれに同意します。企業はこの基本計画に基づく地域経済牽引事業計画を作成し、都道府県等がこの事業計画を承認します。この事業計画に基づき、企業が事業を実施することになります。

支援メニューとしましては、自治体に対しては、地方創生推進交付金との連携などがあります。これらの活用もご検討いただければと考えます。

○杉岡座長

予算はどんなものですかね。1自治体当たり府市連携で、基本計画出して、最大でとか。

○外山委員

現時点では、法独自の予算はなく、従来の地方創生交付金との連携が主になります。この交付金の枠組みを使いますので、市町村の場合、一事業当たり事業費ベースで最大数億円です。ただし交付金は事業費の二分の一で、残りは自治体で自主財源等を御

準備いただくこととなります。本法律において自治体が策定し、国が同意した基本計画に適合するとして承認された地域経済牽引事業計画に従って行われる事業を対象とする交付金については、現在、募集中です。また、既にご案内してありますとおり、来年度交付金の募集も年明けごろから始まる予定です。こちらもご活用いただいて、精華町のプロモーションという地方創生の柱をより大きなものに、そして周りに広げていただければと考えております。以上です。

○杉岡座長

どうもありがとうございました。

コメントございますか。

○大原企画調整課長

ありがとうございます。非常に参考になるような情報提供をいただきまして、ありがとうございます。

まず、前段のK P Iの部分でご報告させていただきましたけれども、やはり高いもの、低いものということで、まちまちということございまして、この部分については、低いものについて、どういう要因で低いのかということも当然十分に分析をしていかなければならないのですけれども、今おっしゃいましたように、やはりもう折り返し地点というところまで来ておりますので、その辺、具体的にちょっとどうしていくのかという部分については、ちょっと事務局のほうで検討していきたいということと考えております。

後段のいろんな企業立地に係ります国の交付金の制度につきましては、活用が可能なものについては、できるだけ活用もしていきたいということ考えておりますので、そのあたり、また別途、いろいろとご相談、ご助言をいただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っております。以上です。

○杉岡座長

その他、もうそろそろ終わりの時間を気にしないといけませんけど…



どうぞ。大丈夫です。

○古瀬委員

ちょっと特産品の話なのですが。

○杉岡座長

イチゴの話ですね。

○古瀬委員

私たちがけいはんな記念公園の中でカフェの運営をさせてもらっているのですが、そこで、今年の春にイチゴフレーバーティーの試飲をやって、いろいろアンケートをとって、させてもらったのですけれども、大変、何ていうのですか、アンケートの結果はちょっとどういうふうに分析されているのですか。その結果は聞いてないのですがね。かなり好評でした。あれはぜひ、何か、物にするというか、事業化するというのか、したらなと思うのですけども、先ほどのクラウドファンディングの話にありましたけども、誰が事業者となってやるかというふうなこともあるのですけどね。ちょっと、ぜひとも進められたらと思います。

○杉岡座長

昼はフレーバーティー飲んで、夜はどぶろくと焼酎飲むという感じですかね。

○古瀬委員

今、川西観光苺園さんがちょっと閉園されたということですが、やっぱりイチゴブランドというのは精華町では非常に高いもので、ぜひともそういう次に進むものというのを、何かつくってほしいなと思います。

○杉岡座長

質問で、おわかりになればってことなのですが、例えば味的な、ほかのイチゴ生産地とは違うイチゴの何か特色的な味であるだとか、健康で、このあたりは私、前任校の府立大とかが応えられるかもしれませんが、何か健康に、イチゴフレーバーティーを飲めば飲むほど、例えばちょっとアンチエイジングにきくとか、何かビタミン

等があったりだとか、何か科学的な知見とかいうことは、今、何か検証とか研究とかされていらっしやいますか。

○古瀬委員

その辺はある程度。

○杉岡座長

データあるんですか。

○古瀬委員

ええ、やってもらっていると思う。

○杉岡座長

そうですね。であれば、今度はブランディングの話になってきますよね、何を打ち出すのかっていう。多分イチゴフレーバーティーだけでは、イコール精華町とかにはならないと思うので、何かネーミングであるだとか、少し、先ほどの京町セイカちゃんとのコラボレーションとか、何かいろんな余白が感じますよね。ぜひとも、ありがとうございます。

今日のこの場だけで意見を終わらせるじゃなくて、もう少し対話できるような、深掘りできるような場がまたあればいいなということで、ちょっと私も意見といたしますか、全体を通して、これは特に回答というよりも、意見を付して、最後に、私も一委員でございますので、発言させていただければと思うのですが、1つは、皆様の共通の少し視点が、特に今日、古瀬様のほうからもあったとおり、本当に進捗率もいいですし、おもしろい地方創生の切り口だと思います。私も他市、京都半分ぐらい見ているので、その中で非常に特色ある、精華町ならではのアプローチをされています。これ自身はいいのですが、他方で、ちょっと行政頑張り過ぎているなという部分がありまして、もう少し住民の皆さんと、団体とというよりも、住民の皆さんにも地方創生こんなことやっているんだって伝わるような余白というか、伸びしろがやや弱いなと思います。なので、もう少し住民の皆さんに、こういった取り組みをやっていて、

もう少し何かアイデア募集をすとかということも含めた何かアプローチが欲しいなということのを思いました。それは、具体的にどういうふうな仕組みがいいのかわかりません。図書館も非常にここ、去年、文部科学大臣賞も受けています。図書館にそういったものの入り口をつくるってということもあるかもしれませんし、学研っていう話も、今日、ありました。いろんな切り口で多分、このまちは可能性があるので、何か住民の皆さんが気軽に、この地方創生の、今日の7つのプロジェクトに対して、参加や意見ができるような余白がもう少し欲しいなと個人的には思ったところです。

そうすると、2番目に、ちょっとカタカナが多くって、私、ぜひ皆さんに聞きたいのですが、例えば3の1も、これ幾つ出てくるかなと思うのですが、これ全部きれいに理解できる町民の皆さん、どれだけいらっしゃるのかなと。シティプロモーションから始まって、インバウンド、サブカルチャー、ジェネレーター、プログラミングとか、結構難しい言葉がいっぱい出てくると思うのですね。アプリとか、インバウンド、繰り返しになりますけども。今日、たまたま午前中、私、大阪で研修していて、これ京都のNPOセンターさんがNPO活動の言葉の辞典みたいなものを作っているんですね。カタカナが今、もう相乱れておりますので、もうカタカナ出せば出すほど、ちょっと回覧いただければと思うのですが、それだけで、高齢の方は、何言っているか、わからんと。わからんから、もう知らんと。こうなってしまうと、もったいないと思うのですね。だから、精華町の価値というものを何とか、別にカタカナを全部日本語にしろということではございません。皆さんがこのカタカナをしっかり理解できるような、ちょうど地域創生戦略にも注釈で小さい字が書いてあるんですよ。でも、小さくすればするほど、老眼で見えないってなっちゃうと思いますので、もう少し、何ていいますか、精華町で使うキーワード辞典じゃないのですが、そういったものを行政がつくるだけじゃなくて、住民サイドからつくってみてもいいと思うのですがね。何かそういったことをちょっとやっていかないと、ややカタカナの多いまちだなという印象を、私、今日の地方創生を一読した感想です。私も、よく叱られ

るんです。総計とかいろんな行政計画をつくっていると、特に町内会の方、自治会の方から、おまえ、カタカナが多いと、この計画は。何を言っているのか分からんとお叱りを受けますので、たぶんこういう声は精華町ではまだないかもしれませんが、あと10年、20年したら、増えるのではないかなという危惧も同時に感じているのですが。古瀬さん、いかがですか。カタカナ多くないですか。大丈夫ですか。

○古瀬委員

大丈夫です。多くないです。

○杉岡座長

たぶん皆さん、学研都市は知的レベルが高い、高学歴の方が多いので、わかるどころがあると思いますが、それだけじゃない部分もきつとあって、声が多分届いてないだけじゃないのかなと。メディアの関係はいかがですか。カタカナ多くないですか。

○常山委員

いや、言われないとわからない。

○杉岡座長

あっ、でも、言われたら、確かについていうことは、結構おありになるかもしれません。理解されている方が多いかもしれません。北部でこれやってしまうと、わからなくて、たぶん一蹴されて、怒られます。なので、北部、南部の文化の違いはあります。いいのですが、ちょっと辞典みたいなのがあったらいいなということを思いました。これが2点目です。

3点目は、結構キーワードとして、他のまちと連携できる要素、結構多いなと思いました。例えばTOJですね、ツアー・オブ・ジャパンでいうならば、今、京田辺市さんと組んでいらっしゃいますけども、例えば聖地の話を申し上げましたですけど、精華町であれば、舞鶴と組めるなどか、あるいは、台湾というと、京都の中で南丹市、旧美山町がもう年間何万人という台湾の方いらっしゃいますので、そこに来た皆さんがどのように、観ただけで終わらずに、この精華町に来て、また、というふうに、

ぐるぐる循環を受けるような、台湾という文脈だけでいうと、南丹市と組めそうですし、それから、スイーツのまちで言うと、私が住んでいる福知山市とも連携ができそうですし、何か山城だけで連携する必要は必ずしもないと思うのですね。都道府県域越えてもいいかもしれません。何かK P I 達成することも、今、外山さんからご助言いただいていたように、大事なのですが、この事業は金の切れ目が縁の切れ目になってしまう可能性もあります。そうならないように、しっかりと、もっと、何ていますかね、戦略的な枠組みをつくっていくことはまだまだできるのじゃないかなということを余白と伸びしろを感じましたので、ぜひとも、私もいろんなネットワークがございますので、活用いただきたいということが私の意見でございます。

ついては、外山さんからご助言あったとおり、中間の折り返し地点になりますので、ぜひ広報誌とかで、今日、我々、この8名の委員はよく進捗わかりましたけれども、住民の皆さんにぜひともこれフィードバックお願いしたいと思うのですね。今川晃先生も、住民自治こそが地方自治の要諦であるってことが彼の一番のポリシーでありますので、住民の皆さんに、今日、進んでいらっしゃるこの状況とか、本当わくわくするようなお話たくさんございましたので、ぜひ広報特集とかケーブルテレビとかではケーブルテレビで特集を組むとか、住民の皆さんにぜひとも今日の模様を伝えていただいて、パブコメとかいうこの言葉は言いませんので、住民の皆さんに、あっ、なるほどなと思ってもらえるような、ぜひとも対話をお願いできればなと思いました。

最後、私、座長というよりも、一委員としての意見でございます。

そろそろ8時過ぎてきましたので、閉じさせていただければと思いますが、特にこれ言い漏らしたとかございましたら、いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは、皆様、長時間本当にどうもありがとうございました。全てのご意見を直ちに酌み取るということは無理かもしれませんが、ぜひとも庁内で熟議をいただいて、町長のリーダーシップのもと、また、来年、あっ、ここまで進んだかと言って集まれるように、また、楽しみにしたいと思います。

では、事務局にお返ししたいと思います。

○大原企画調整課長

ありがとうございました。非常に活発なご議論いただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、次第の5ということで、事務連絡のほうに移ってまいりたいと思います。

本日の会議におきましては、委員の皆様から本当に貴重なご意見やご提案などをいただきました。本日いただきました内容を参考とさせていただきながら、地方創生、地域創生の取り組みを進めてまいりますとともに、K P I の進捗状況など、本日お配りをさせていただきました資料につきましては、後日、町のホームページにおきまして公表をさせていただきたいというふうに考えております。

また、場合によりましては、今、杉岡先生おっしゃいましたように、広報誌等でもご紹介できる部分については、また、可能な限り検討してまいりたいというふうに考えております。よろしく申し上げます。

それでは、事務局からの連絡につきましては以上でございますが、皆様方のほうから何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようでしたら、非常に長時間でございましたけれども、これをもちまして、平成29年度精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。